

環境白書の刊行にあたって



富山県は、立山連峰や黒部峡谷などの世界的な山岳景観や曇気楼がみられる神秘の海富山湾、さらには本州一の植生自然度を誇る森林、名水百選に全国最多の8か所が選定されている清らかな水環境など、豊かな水と緑に恵まれています。私たちは、これらの素晴らしい環境を守り育て、県民の大切な財産として、次の世代に引き継いでいかなければなりません。

現在、地球温暖化や生物多様性の損失をはじめとする地球的規模の問題から、廃棄物や自然の改変、大気・水・土壌の汚染などの身近な問題に至るまで、私たちは様々な環境問題に直面しています。また、平成23年3月に発生した東日本大震災を契機として、環境・エネルギー問題に対する関心が一層高まっており、ライフスタイルや事業活動のあり方を見直した安全安心で持続可能な社会づくりが求められています。

幸い、富山県では、恵まれた自然環境や県民の皆様の環境問題に取り組む真摯な姿勢に支えられ、全国初となる県内全域でのレジ袋の無料配布廃止をはじめ、エコドライブなどのエコライフの推進、全国トップクラスの包蔵水力を活用した小水力発電の推進や住宅用太陽光発電の導入促進、「水と緑の森づくり税」を活用した里山林の再生など、県民総参加による幅広い取組みを進めています。

また、今年3月には、平成16年に策定した「富山県環境基本計画」を見直し、平成33年度を目標年度とする新たな計画を策定し、「水と緑に恵まれた環境が保全・創造され、人と自然が共生しながら発展する富山」の実現に向け、「循環型社会と低炭素社会づくりの推進」「自然環境の保全」「生活環境の保全」「水資源の保全と活用」に積極的に取り組んでいるところです。

さらに、今年4月には立山・劔岳の万年雪が国内初の現存する氷河と認定されるとともに、7月には「立山弥陀ヶ原・大日平」がラムサール条約湿地に新規登録されました。本県に新たな魅力が加わるとともに、自然環境保全への意識の向上や観光振興等につながるものと大いに期待しているところであり、今後、保全事業などを進めることとしています。

今後とも、こうした本県の特徴を活かし、県民、民間団体、事業者、行政が一丸となって持続可能な地域づくりを推進し、環日本海地域の「環境・エネルギー先端県」の実現を目指します。

この環境白書は、平成23年度及び24年度における本県の環境の状況を紹介するとともに、環境の保全及び創造に向けた取組みについて取りまとめたものです。本書を通じて、多くの皆様に富山県の環境への理解と関心をさらに高めていただき、環境の保全と創造にご協力を賜りますようお願いいたします。

平成24年10月

富山県知事 石井 隆一